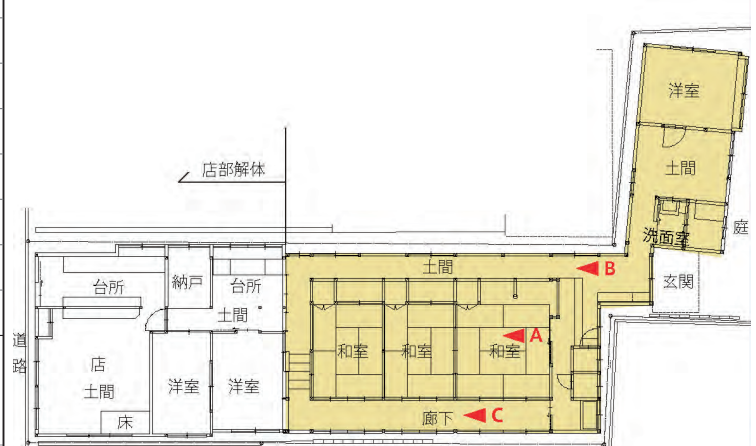
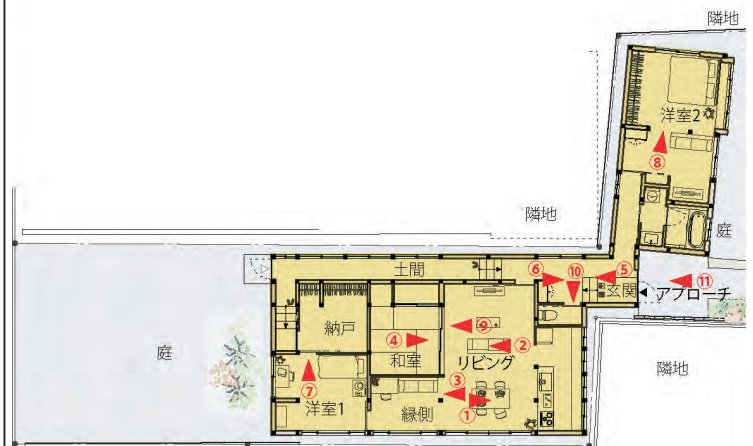


リフォーム前後の写真



リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など				リフォーム前の平面図		リフォーム後の平面図	
別々に暮らしていた親子（60 歳代の親と 30 歳代の娘夫婦）のために、空家となった建主の実家を二世帯の住まいとして改修した計画である。既存住宅は、暗く、寒かった。また、土間で各居室と水回りが分断されており、バリアだらけであった。そうした性能上の課題を解決することに加えて、世代もライフスタイルも価値観も異なる家族がそれぞれ「自立」し、助け合える住まいが求められた。		距離感のデザイン：既存住宅が持っている母屋、離れという空間構成を活用し、自立した二世帯の距離感をデザイン。各部屋は、土間		により、互いに干渉されずに自由に外部へ出入り出来る。両者をつなぐリビングでは、廊下であった南側を一体化し、その一部を縁側空間として再生。リビングスペースに縁側、和室と多様な空間があることで、一緒にいたい時とそうでない時等、状況に応じた居場所の選択を可能にし、息苦しくない適度な距離感を創出している。			
		思いをつなぐ：梁やじゅらく壁等、古い素材を活用する事で、空間にメリハリを与えると同時に、居住者の記憶を継承した。					
性能向上の特性 バリアフリー性能、温熱性能、耐震性能、耐久性能、防犯性能		特に配慮した事項 床のバリアフリー化、外壁・床下・天井への断熱材設置、一部 LOW-E ガラスの採用、耐力壁の新設、基礎の新設・補強、一部（水回り）腐朽構造材の交換、金物の新設、外壁塗替、住設機器の交換、玄関扉の交換					
データ				S=1/300		S=1/300	
所在地	福岡県糟屋郡志免町	新築竣工年	1975 年	築後年数	42 年	施工期間	100 日間
該当工事床面積	122.80 m ²	／総工事床面積	194.94 m ²	該当部分工事費	1250 万円	／総工事費	1400 万円
居住者構成	65 歳以上：0 人 / 15～64 歳：3 人 / 15 歳未満：0 人						
				リフォーム部位： ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ ■階段/ ■玄関/ ■イカテリ/ □マツヨリ共用部分/ □その他			

講評

数年前から空き家だった亡き夫の実家をリフォームした事例である。住むのは妻である施主と娘夫婦であり、離れた場所で別々に暮らしていた親子が適度な距離感を保ちながら気兼ねなく同居できる家の実現されている。

設計内容は施主の息子である設計者に一任され、関西から2週間ごとに通ったとのこと。離れた土地であるため、施工会社は関西の仕事のつながりから信頼できる現地業者の紹介を得て、数社の見積もりを検討した上で慎重に決定した。内装重視を基本としてみんなが使うリビングには良い材料を使い、外装は今後にゆだねる方針で最低限の範囲にとどめている。それでも雨漏りチェック、耐力壁追加や基礎補強、断熱等性能向上などを行っており、且つ建物の最も古い部分は減築した。設計者の来訪回数に制約がありながらもリフォームが問題なく進んだのは、互いの努力の結果であることが伺える。

審査の初期段階では、この事例は比較的小となしく、さほど独創的な印象ではなかったが、それでも“空き家活用、減築、二世帯”にトライしており、生活がどのように展開されているのか興味深かった。そして現地審査の際には、生き生きと住みこなす居住者の姿と丁寧な造りを見ることができた。

さて、この良さはどこから来ているのか。リビングの小屋組を活

かしたモダンな雰囲気からなのか…。設計者は「元の構成を大きく変えないで」計画したという。この家の特徴である土間は、現在の居住に対応した形に改善されたが、裏動線の機能を持ちながらも奥行きのある土地の記憶として残った。聚楽壁や襖を残した和室は、落ち着きがあって泊まり客からも好評とのこと。さらに施主の希望もあって古い型板ガラスが見事に活用され、縁側も第二リビングとして残された。これらは造り込み過ぎず曖昧な「抜け感」を醸し出し、付かず離れずの仕掛けとなっている。居住者が自分の可能性を重ねるように楽しんで暮らす様子が、心地良い空間を作り出していることを認識させてくれた。完璧に仕上げた例は高く評価されるが、同時にこのような「抜け感」も評価して良いと感じた。付け加えれば、数回の転居で荷物が減っているのも快適さの一因だろう。竣工からの1年間は、性能向上もあって非常に快適であったとのことである。

この家はかつて炭鉱街の銀座通りに面して店舗を営んでいた。今後も多世代に亘る新たなコミュニティに繋がる商業空間の構想があり、その足掛かりとしてのリフォームでもある。

以上のようにこの作品は、空き家活用・減築・二世帯居住、さらにコミュニティ意識などの点で高く評価でき、公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター理事長賞に相応しいと判断した。